2009年8月20日発行　発行：学校法人国際医療福祉大学　☎0287-24-3000　ホームページアドレス：http://www.iuhw.ac.jp/

「共に生きる社会」の実現をめざして

IUHW

International University of Health and Welfare

vol. 78
August 2009

北島政樹 新学長就任

第14回 運動会

平成21年度 入学式

IUHW International University of Health and Welfare vol.78 July 2009

CONTENTS

2 北島政樹新学長就任

4 第14回運動会 大田原キャンパス

8 平成21年度入学式 大田原キャンパス
式辞 谷修一学長
新入学生概要

8 小田原キャンパスレポート 第11回
9 福岡天神キャンパスレポート 第1回
10 大川キャンパスレポート 第16回

11 Topics & Columns
医療福祉・マネジメント学科「新入生歓迎会」開催／言語聴覚学科「成人言語懇話会」開催／「平成21年度日本視能訓練士養成施設連絡協議会第１回総会」開催／〈コラム〉私のおすすめ本 第12回「成長するティップス先生 - 授業デザインのための秘訣集 - 」（福岡リハビリテーション学部 理学療法学科学科長 田原弘幸）／前田眞治教授が第28回温泉関係功労者として表彰される／総合教育部授業紹介「人間と性」／「初期臨床研修医合同オリエンテーション」開催／〈コラム〉サークル紹介 第７回 天文部／「関連職種連携ワーク」がスタート／〈コラム〉私の主張 第12回「研究者のマインド」（薬学部 薬物動態学教授 久岡正史）／看護学科の公開学習会に奮ってご参加を／医療福祉・マネジメント学科「イブニングタイム」のお知らせ／学生アンケート結果の概要／平成21年度奨学生決定／平成20年度学校法人国際医療福祉大学 決算報告

16 施設インフォメーション
〈国際医療福祉大学病院〉市民公開講座
〈国際医療福祉大学塩谷病院〉看護週間イベント
〈三田病院〉小川病院長ご挨拶・新病院の起工式が行われました
〈熱海病院〉第39回熱海病院院内学術懇話会・第16回熱海病院公開講座
〈山王病院〉新生児蘇生法講習会
〈化研病院〉心臓カテーテルと院内ＢＬＳ・ＡＣＬＳ講習開催について
〈高木病院〉自分たちに何ができるのか「未病と健康のつどい」
〈福岡山王病院〉福岡山王病院が開院 順調なスタート

20 医療福祉チャンネル774／
お知らせ IUHW Hot News

IUHW Note

平成21年度の広報委員会の委員が決定しました。

【広報委員長】丸木一成（医療福祉学部長）
【広報委員】重久加代子（看護学科）・川野英子〈看護学科〉・倉本アフジャ亜美（理学療法学科）・高村直裕（作業療法学科）・河野眞（作業療法学科）・谷合信一（言語聴覚学科）・三柴恵美子（視機能療法学科）・菊地義信（放射線・情報科学科）・横塚記代（放射線・情報科学科）・中田健吾（医療福祉・マネジメント学科）・須藤昌寛（医療福祉・マネジメント学科）・角南明彦（薬学科）・齋藤智恵（総合教育センター語学教育部）・長谷川高志（情報教育センター）・田中繁（大学院）・高石和秀（栃木・事務局）・高橋章子（栃木・事務局）今井清健（小田原・広報担当）・原田ちはる（九州・広報担当）・金井雅之（東京事務所・広報室）

各界から多くの来場者がつめかけた「祝賀会」

地元からのご来場者で賑わった「感謝のつどい」

「学長就任式」で挨拶する北島新学長

その結果、卒業後の就職率も高く、多くの施設からの期待に応えております。我々教職員一同は、今後も本学の基本理念と教育理念の基で、より良い教育環境の充実・推進をしていく所存であります。

最後に、私は学生の皆様が卒業後も〝国際医療福祉大学で学んで良かった〟と思われるような学舎にするべく常々努力をしていきたいと考えております。

北島政樹新学長就任

二〇〇九年七月、本学は北島政樹新学長を迎えました。

3つの基本理念

・人間中心の大学
・社会に開かれた大学
・国際性を目指した大学

7つの教育理念

・人格形成　・国際性
・専門性　・自由な発想
・学際性　・新しい大学経営
・情報科学技術

七月一日（水）、大田原キャンパスにて「学長就任式」が行われました。北島新学長はご挨拶の冒頭、平成一三年より八年間にわたって学長を務め、この間、四学部を立ち上げるなど本学の発展に尽くされ、このたび名誉学長に就かれた谷修一前学長の功績を讃えました。

続いて、四つの附属病院をはじめ、豊富な臨床実習施設を擁する本学の強みをさらに活かし、チーム医療に貢献できる医療福祉の専門職を育成すること、大学経営を取り巻く昨今の厳しい経済状況を認識しつつも、ピンチをチャンスに変えるビジョンを共有し果敢にチャレンジしていく姿勢を明らかにしました。また、本学の掲げる「３つの基本理念と７つの教育理念」を再確認し「共に生きる社会」の実現をめざすことの重要性を強調しました。

引き続き、七月一四日（火）、ホテルニューオータニにて「祝賀会」、七月二七日（月）、大田原キャンパスにて「感謝のつどい」が開催され、内外に向けて広く北島新学長が紹介されました。

国際医療福祉大学は〝病気や障害を持つ人も健常な人も、お互いを認めあって暮らせる「共に生きる社会」の実現〟を目指し、三つの基本理念と七つの教育理念を掲げて教育を推進しております。また、国民に受け入られる質の高い「チーム医療」を確立するためには、将来メディカルスタッフの一翼を担う学生に向けて、教育スタッフや教育環境を充実させることが不可欠であります。本学は、各界の第一人者を教育スタッフに招くと同時に、優れたカリキュラムの作成と先進の教育ツールを用いて日々の教育にあたっております。また、臨床実習を重視し、先端設備を擁した教育関連施設の充実を計ってまいりました。その結果、大学附属病院をはじめ、アジア有数の言語聴覚センターの機能をもつ国際医療福祉大学クリニックや多くの福祉施設を擁し、さらに全国に約六〇〇もの関連実習施設を整備してまいりました。これらの施設は互いに連携し、本学の充実した教育・研究体制を支えております。

他大学に類を見ない本学の特長のひとつが四つの附属病院を擁していることであります。国際医療福祉大学病院、三田病院、熱海病院に、本年四月から塩谷病院が加わりました。それぞれの病院はこれまでの診療実績を基に特色のある地域中核病院として貢献すると同時に、臨床経験豊富な教育スタッフの充実を計り、木目の細かいカリキュラムに則り慈恵の心をもったメディカルスタッフを養成すべく、学生の教育に活用されております。さらに、これらの病院では、各診療科の縦割りを廃し、横断的に連携し合う「チーム医療」を確立しておりますが、これは学生にとって、ごく自然に人とのコミュニケーション技術や他の専門職との共同作業のノウハウ・知識を学ぶ絶好の教育機会になっております。

こうした恵まれた教育環境の中で、学生は短期間で医療福祉の専門職としての高度なスキルと知識を学び、卒業時に施行される国家試験では高い合格率を上げ、

第14回運動会

in ŌTAWARA Campus

5月24日（土）、大田原キャンパスにおいて
第14回運動会が開催された。
時折強い風が通り砂煙の舞う
コンディションでしたが
強い日差しの中
天候の心配をすることなく
それぞれ思う存分、練習の成果を発揮した。

一体感・対抗心・伝統・工夫
いろいろな本気が伝わった！

■総合成績

優勝	理学療法学科	７９０点
２位	作業療法学科	６１０点
３位	医療福祉・マネジメント学科	５３０点
４位	看護学科	４８０点
５位	視機能療法学科	４３０点
６位	放射線・情報科学科	４１０点
７位	言語聴覚学科	４００点
８位	薬学科	３１０点

部活動対抗リレー（本気編）
１位　ハンドボール
２位　フットサル
３位　手話研究部メビウス
４位　クロスオーバー（ダンス）

部活動対抗リレー（部活動紹介編）
・吹奏楽
・ラクロス
・ダンス部
・ジョンビー・ジョンバ（ダンス）
・海外知見サークル　ＯＰＳＴ
・硬式テニス

実行委員長の看護学科2年
北川紗希さん

看護学科伝統「よさこいソーラン」物語

本年度も応援合戦を制したのは二年生の熊谷宙大団長率いる一三二名による「看護学科のよさこいソーラン」であった。この踊りは、平成一三年頃より看護学科の学生たちにより踊られ、学年を超えて一つのことに取り組めるようにと、学科としても見守り支援してきたものである。

中心は一、二年生であり、現在の団長は十一代目。全学年を通してこの踊りへの想いは強く、新入生歓迎会のときに「よさこいソーラン」を披露し、伝統を受け継ぐものたちのハートをつかむ。

また、二年生は春休みから、踊りを教えるチームと、はっぴ作製チームにわかれ新入生を受け入れる準備をする。毎年七〇名程が新しく加わるが、後輩となる参加者全員のはっぴは、先輩の手により一つ一つ縫い上げられる。新入生は先輩の作った赤を基調にしたはっぴに、黒の布で切り抜いた「看」の文字を縫いつける。運動会の前日は実習室ではっぴにアイロン掛けする学生の姿を見受ける。晴れの舞台とそれを成功させるために取り組んだ学生たちの想いが伝わってくる風景である。

この踊りは、運動会のほかに、大田原市の与一祭りや茨城の「よさこいソーラン祭」、卒業時の学位記授与式などでも披露される。卒業生と父兄を前に、階段式の教室の通路に配した後輩たちは同じ伝統を受け継ぐ誇りを胸に、四年間の感謝をこめて先輩のために踊る。見守る教員も、手の感覚がなくなるほどに手をたたき、掛け声をかける。そこには胸が熱くなるような一体感がある。

在籍する応援団長に「よさこいソーラン」の魅力についてたずねてみた。四年生の滝沢拓也さんは「看護学科の代表、大学の名前を背おって地域や県外でも踊りを披露できること。横のつながりは勿論、縦のつながりができること」。三年生の高橋はるひさんは「学年を超えて参加できるので大人数で取り組み、一体感や達成感がある。日ごろはあまり関わることのない人たちともこの踊りを通してつながりが生まれる」。本年度の団長熊谷さんは「みんなの意見をまとめるのは大変だが、その困難に取り組み、踊りを成功させることに魅力を感じる。先輩たちに教えてもらったことを引き継いで、この一年取り組んでいきたい」と話してくれた。熊谷さんは、来年の準備として、新団長となる一年生の片岡崇紘さんにこの一年の活動を通して伝統を伝えていく。

（看護学科講師　重久加代子）

●写真は今年も写真部の協力をいただきました。ありがとうございました

平成二一年度

学部入学式並びに大学院入学式

国際医療福祉大学　大田原キャンパス

期日　平成二一年四月四日（土）
会場　那須アスリーナ一階

式次第
校歌斉唱
式辞
来賓祝辞
新入生誓いのことば
学部長・学科長紹介

誓いのことば（抜粋）

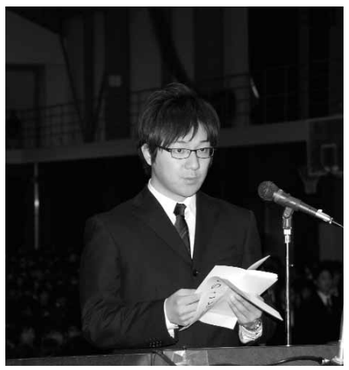
超高齢社会へと突入した今の日本では、医療と福祉の連携が大変重要視されつつあります。医療・福祉の専門家を目指す私たちにとって、この大学での学習は大変貴重なものになると思います。積極的に学業に励み、幅広い知識を身につけるとともに、病院や福祉施設での実習やボランティア活動から、人の為に行動することの大切さや喜びを感じ、相手を思いやる心や広い視野を養っていきたいと考えております。

医療・福祉の現場でご活躍なさっている卒業生の方々や、目標に向かい日々努力なさっている先輩方の姿を見習い、先生方のご指導のもと、新入生一同学業に励んでいきます。国際医療福祉大学に入学できた誇りと自信を持ち、決意も新たに、それぞれの目標に向かって邁進することをここに誓います。

学部新入生代表
医療福祉学部　医療福祉・マネジメント学科
鈴木詩織さん

今日、我が国の保健・医療・福祉分野は大きな変動の時を迎えています。少子高齢社会の到来や疾病構造の変化といった状況の中で、疾患や障害を持つ方々に対する早期地域移行支援・就労支援など、我々コ・メディカルが取り組まなければならない喫緊の課題が山積しています。そのような情勢は、専門職としての視点に立脚し、質の高いサービスを提供していくことの重要性を一層強めています。私が大学院への進学を決意したのは、この時代に臨床の場に立つ専門職として、より高度な専門性と幅広い視野の習得が必要だと感じたからです。私たちは、素晴らしい教授陣のもと、高度専門職に足りうる幅広い知識・技術を修得するとともに、深い人間性の獲得を目指し、研究と勉学に邁進していくことを決意しております。そして、学んだ技術を社会へ還元し、広く国民の健康に寄与できるよう自己研鑽に努めることをここに誓います。

大学院新入生代表
大学院　医療福祉学研究科　修士課程　保健医療学専攻　作業療法学分野　有村宗洋さん



学長式辞

谷修一学長

本日入学した学部学生は八九五人、大田原キャンパスで学ぶ大学院生は六三人です。この中には、中国、韓国、モンゴル、ネパール、ポルトガルなど学部、大学院合わせて一三名の留学生の皆さんも含まれております。ご臨席の多数の保護者、ご家族の皆様にも心よりお祝いを申し上げます。

本学は、医療や福祉の専門職の地位の向上と高度な教育、将来における優れた指導者を必要とする時代の要請に応えるという大きな夢をもって、平成七年に開学しました。以来、病める人も障害を持つ人も健康な人も、お互いを人間としての尊厳を認めあって生きることを「共に生きる社会を築く」という理念で表わし、これを全学科に共通する教育の理想として掲げてまいりました。

更に、本学の教育で重視していることの一つは、臨床教育です。そのために、大学構内及び周辺地区に医療福祉施設を整備しております。キャンパス内に、障害者のためのリハビリテーションセンターや言語聴覚センター、高齢者のためのグループホームや特別養護老人ホームなどを持ち、また隣の那須塩原市に附属病院や老人保健施設など、更に静岡県熱海市に熱海病院、東京都港区に三田病院があります。また、この四月からは、矢板市の塩谷総合病院を栃木県の要請により本学が引受けることになりました。このような附属・関連施設を通じて、学生の臨床教育の充実を目指すとともに、教員の先生方にとっては、研究や臨床技術の研鑽の場ともなっております。

学生の皆さんにとっては、教育の現場の中に医療や福祉の現場があることによって、障害者や病気の人と身近に触れ合い、将来の医療福祉職へのより明確な動機付けとなり、「共に生きる社会」を身近なものに実感できます。

学部に入学された新入生の多くの皆さんは将来、医療や福祉の現場で人と直に接し、病気や障害と向きあう仕事ですから、病に苦しむ人、障害に悩む人と同じ目線で、生身の人間として接することができるかどうかが大切なことだと考えております。豊かな人間性を養うという意味からも、自分の専門以外のことについて幅広い教養を持つことも大切です。

私は、国際医療福祉大学は、学生のためにあってこそ将来にわたって発展すると考えており、教職員一同は、皆さんが入学前に期待していたことが満たされ達成できるかどうか、教育の内容やそれを支援する体制が十分かどうかなどが重要なことであると考えております。

しかし、全ては、皆さん自身の意欲次第です。自らを律し、自ら考え、そして自ら学ぶことによって、大学は、楽しく充実して輝きに満ちた場所となります。友人との交流、サークル活動、地域の人々との親睦、ボランティアへの参加など、何か一つ打ち込めるものを見出すことは、学業以上に皆さんの人生にとって大切なことだと思います。若い日に夢見た理想や目的を心にとどめて、夢に忠実に生き続けるという気持ちで、これからの学生生活の一歩を踏み出していただきたい。

皆さんのご健闘を期待して、私の歓迎の挨拶とします。

平成21年度新入学生概要

■学部	1320名
【大田原キャンパス】	895名
保健医療学部	610名
看護学科	131名
理学療法学科	103名
作業療法学科	101名
言語聴覚学科	94名
視機能療法学科	53名
放射線・情報科学科	128名
医療福祉学部	167名
医療福祉・マネジメント学科	167名
薬学部	118名
薬学科	118名
【小田原キャンパス】	159名
小田原保健医療学部	57名
看護学科	51名
理学療法学科	51名
作業療法学科	102名
【福岡天神キャンパス】	102名
福岡看護学部	164名
看護学科	82名
【大川キャンパス】	41名
福岡リハビリテーション学部	41名
理学療法学科	266名
作業療法学科	253名
言語聴覚学科	132名
■大学院	40名
医療福祉額研究科	25名
保健医療学専攻修士課程	56名
医療福祉経営専攻修士課程	13名
臨床心理学専攻修士課程	13名
保健医療学専攻博士課程	
薬科学研究科	
医療・生命薬科学専攻修士課程	

第四五回北條五代祭に初参加

平成二一年五月三日（日）、小田原市観光協会主催の第四五回北條五代祭に大学の代表として、学生が一五名パレードに参加した。今年が大学としての初の参加となる。観光都市小田原としての最大の祭りに参加することは、地域貢献の一つであるとともに、大学の名前を地域の人々に知っていただく良い機会ととらえ、参加した。

今年の北條五代祭は、四五回という節目の回であり、今春に再建された馬出門（うまだしもん）の披露も兼ねていたことから、沿道には見物客約一七万人が駆け付け、参加者へ拍手を送った。パレードには、武者に扮した五〇隊約一八〇〇人が参加。学生は北條氏綱隊の軍列に加わり、勇壮な武者として祭りを盛り上げた。

本物の甲冑を身に付ける甲冑に戸惑いを見せていたが、パレード開始が近付くにつれて、引き締まった顔を見せていた。

参加した学生は「小田原の大学に通っているので、是非参加してみたいと思いました」など参加への意気込みを語っている。参加理由は様々ではあるが、伝統ある祭りへの参加を各々が楽しんでいた。

午後、小田原城跡内にある銅門（あかがねもん）広場にて出陣式が行われ、参加者が一堂に会し、全員が「エイ、エイ、オー」と勝鬨を挙げると、地響きが起こった。北條鉄砲衆の号砲を合図にパレードはスタート。小田原市長扮する北條早雲を先頭に騎馬隊は、真新しい馬出門をくぐり、小田原市街地を練り歩く。天気は快晴であったが、強風が吹き荒れる中でほら貝やドラを打ち鳴らしながらのパレード。旗や幟を掲げながら歩くには苦労するパレードとなったが、沿道の見物客や、応援に駆け付けた学生から「頑張れ」と声を掛けられると、笑顔で応えていた。

慣れない甲冑を着て、二・七キロの距離を一時間半かけてのパレード。疲れを見せるかと思ったが、終わってからも、パレード中と変わらぬ笑顔。学生は「沿道の皆さんがフレンドリーに話しかけてくれたので、すごく楽しく歩くことが出来ました。」と感想を口にしていた。

今年初参加の北條五代祭、今後とも伝統的な祭りに参加し、大学のPRと地域への貢献を続けていきたい。

（総務課　下田　岳史）

恒例の市民公開講座開催

平成二一年五月二四日（日）、恒例となっている市民公開講座が開催された。小田原キャンパス開設と同時にスタートして今年で四回目。今年のテーマは「家族と自分とみんなの健康を考える―わくわく測定体験―」。就学前のお子さんから高齢者まで参加できる体験型の講座で、今年は健康に関する二〇の講座が用意された。当日はあいにくの雨模様にもかかわらず、昨年より多い二〇〇名を超える方々が小田原キャンパスを訪れた。

ここで講座のいくつかを紹介。

まずは、身体測定をはじめ、血管年齢、骨密度、肺年齢を測定する「計って知ろう！　からだのサインとさび具合」。この講座で、今の健康状態をチェック。その後、血液や脳について模型や図表を使って紹介する「人のからだの不思議」で人のからだについて知る。

その他、認知機能をチェックする「あなたの脳は使われていますか？」、一次救急や避難所生活で生き抜く知恵を体験する「災害時の命のガード」、体力測定を行う「今年もわくわく体力測定」などを体験し、ストレスチェックとハンドマッサージの「ストレスは人生のスパイス」で心を癒す。

また、今回は新たな試みとして、就学前の子どもを対象とした「スポーツキッズ大集合！」を開催し、例年よりお子さんや、その親となる年代層の来場者を増やすことができた。

今年は開催日が、新型インフルエンザの流行時期と重なったため、新型インフルエンザに関するパネルを作り予防方法の啓発に努めるとともに、会場内に手指消毒薬を配置し、希望する来場者にマスクを配布した。また、『手洗い』についての講座では、実際に手を洗ってもらい、ブラックライトを使ってその結果を体験してもらうなど、参加者にとって関心の高い事柄について効果的な講座を行うことができ、大変喜ばれた。

また、来場者からは「毎年楽しみにしています。」「今後も公開講座を続けて欲しい。」「学生のあいさつが爽やかだった。」などのおほめの声が寄せられた。

各公開講座とも、二年生を中心に準備を行い、一年生は来校された市民の方々の接遇・案内を担当した。そして、市民や学生に対するアンケート調査は従前どおり行ったが、今年から指導した教員に対してもアンケートを行い、今後の本事業の充実・改善につなげていきたい。

そして、今後とも、大学の持つ知見を地域社会に還元し、地域の方々の健康づくりに役立つよう市民公開講座を続け、地域社会との交流を深めていきたい。

（総務課　高久　晃）

福岡看護学部　開設

福岡看護学部学部長
小田正枝

四月七日の入学式に一〇二名の新入生を迎えて五か月が経過しようとしている。国際医療福祉大学の福岡看護学部としての歴史は始まったばかりであるが、都市型キャンパスとして特色ある大学創りにむけて教職員および学生ともども励んでいる。これは新しい学部の伝統のはじまりを予感させている。福岡看護学部看護学科は国際医療福祉大学の太田原キャンパス（藤本学科長）、小田原キャンパス（島内学科長）の看護学科に加えて設立された。三校が連携を取りつつ運命共同体として歩むこととなる。また、今年三月に初めて卒業生を出した大川キャンパスのリハビリテーション学部とは場所は離れているが、運命共同体として機能する。

福岡看護学部の開学準備の二〇〇八年は、全国の看護系大学に対して、文部科学省から時代に即応したカリキュラム改正の要求がなされた節目の年であった。これを受けて慌ただしい開学準備の中にも時代を先取りしたカリキュラムでスタートできた。これは幸いなことであったと感謝している。

高校の延長のような幼さを残した入学式当初の学生から、最近では新生活にも慣れ大学生らしさが芽生えた感がある。学生の表情にも落ち着きが出てきている。それは五月の連休明けから本格的に始まった授業や高那会グループとの合同運動会、六月初めに行われた基礎ゼミナールⅡの早期体験実習を経たからと考える。

早期体験実習では発見学習として学生の気づきを狙いとして臨み、終了後グループによるディスカッションを経てその成果を発表した。その一部を紹介する。

学生はまず、自分たちの「思い込み」に気づいている。患者さんとは不安でとにかく辛く、ずっと病気のことにとらわれていて、暗いイメージだと表現していた。患者さんと話をしてみると病気やこれからの生活に不安を持っていることは確かだが、学生が気づいたのは「患者さんは希望を持っている」ということ、このことは大変興味ある発見だったようである。看護師に対しても同様で、とにかく仕事が大変！　というイメージだったのが、「忙しい中にも患者さん一人ひとりを見ていて、目線の高さを合わせ、学生には理解できなかった患者さんからの非言語的表現での要求をわかってあげている」ということ、相手の立場になってその人を思いやるという看護師の姿勢に気づいていた。学生はいろいろな気づきがあり細部までよく見ていてこれからの学生の成長が楽しみである。

福岡看護学部はスタートしたばかりであるが、四年後の完成年次に向けて都市型キャンパスであるが故の教育環境、施設整備など、大学としての内容、規模の拡充や関連施設との研究・臨床教育等に関する推進を課題としている。また、学生は真面目に素直に成長しているので、この目の輝きを失わせることのないように、懸命に誠実にそして思いやりを持って学生を育てたい。

福岡天神キャンパスの歴史始まる

二〇〇九年四月七日、ついに福岡看護学部が開学の日を迎えました。朝から天神キャンパスにやや緊張気味のスーツ姿の学生たちが集まり、午前一〇時三〇分、厳かに「国際医療福祉大学福岡看護学部開学式・入学式　大学院　入学式」が始まったのでした。

開会の辞の後、校歌斉唱が行われましたが、実は新入生たちは、入学式前のオリエンテーションの時から秘かに練習をつんでいたのです。練習の最初は恥ずかしがってなかなか大きな声を出せなかった学生たちでしたが、本番では見事な歌声を披露し、福岡看護学部第一期生として立派なスタートを切ったのでした。

その後高木邦格理事長、谷修一学長、開原成允大学院長の式辞に続き、福岡市長代理としてご臨席いただいた鈴宮寛子・中央保健所長、ならびに大城節子・福岡県議会議員よりそれぞれ祝辞をいただきました。

入学式後、新しい環境、新しい友人、今までとは違う大学の授業形式に戸惑いをみせる学生たちでしたが、それにも徐々に慣れ、キャンパス内は明るい笑い声に包まれています。

五月には高那会グループ合同運動会が行われ、より一層強く団結した第一期生たちは、六月に行われた初めての体験実習も乗り切り、先生たちをうならせるような見事な発表も披露しました。

これから四年間、このキャンパスで学び、成長していく彼らに大いに期待したいと思います。

（事務部　藤田祐子）

奮起せよ！ リハ学部生
―五年目の新たな出発―

福岡リハビリテーション学部
准教授　後藤純信

時の移ろいは早いもので今年も桜やツツジを愛でる間もなく、外を歩くとあじさいの季節に入っている（この原稿が活字になる頃には紫陽花も終わりかな?）。この時期になると、学生諸君も、在校生は過年度よりも良い意味でも悪い意味でも大人びた態度をとり、また新入生も高校生活と大学生活の違いに戸惑いながらも次第に大学生らしくなっていく姿には驚かされる（私は着任して五年目に入るのだが、成長しているのは腹周りだけかもしれない）。当学部も完成年次を過ぎて五年目に入り、カリキュラムの改変など新たな発展の局面を迎えている。

〝Oh, No!!〟からの出発

私は、大学入門講座のまなび学や専門基礎分野の神経内科学や脳神経外科学の他、神経心理学や生理学実習の授業を担当している。特に〝脳・神経機能〟に関係する科目は、理学・作業・言語聴覚療法の全ての分野の知識を担う重要な柱の一つと自負している。しかし、多くの学生にしてみると厄介な教科で、中には〝神経〟〝脳〟と聞いただけで〝Oh, No!!〟と叫んでアレルギー反応を起こし教科書や参考書すら見ないという学生もいると聞く。教える側からしてみれば、〝神経学〟ほど機能や障害機序が理路整然とし、覚えるポイントが少ない領域は他にはないのではなかろうか（他の分野の先生ごめんなさい!!）。推理小説好きには堪えられない学問のはずなのだが、いつも敬遠され肩身の狭い思いをしている。このような〝食わず嫌い〟的な教科への理解度をあげ身近に感じてもらう目的で、出席票の代わりに自由に質問や授業へのコメントを書いて提出してもらっているが、毎年「神経学の勉強の仕方を教えてください！」との質問が後を絶たない。〝まず、神経学を好きになること、そして障害が起こっている人の身になって、その姿かたちの真似ができるようになること〟などと中途半端な回答し、以後折りに触れ研究室でお菓子とコーヒーを飲みながらおしゃべりして、〝脳・神経〟に興味を持たそうと試みているが、果たしてその効果が上がっているのかいつも心配になる。しかし、そのような学生が実習先から電話やメールで、患者さんの症状や診断について自分の意見を交えながら質問してくるのに接すると、「あながち〝Oh, No!!〟からの出発も悪くないな！」と思う今日この頃である。あとは、学生諸君に〝やる気〟や〝効率の良い学習法〟を早く身に付けさせる方法を考えることである。

カリキュラム改変
―〝まなび学〟の意図するもの―

本年度の入学生からカリキュラムを大幅に変更し、その目玉として〝まなび学〟を開講した。〝まなび学〟は、大学入門講座の位置づけで、高校時代と異なる大学生としての生活の仕方、大学での諸手続きの方法や勉強の方法やレポートの書き方などを初歩から学習し、4年間の大学生活を有意義に実りあるものとして過ごせるよう基盤をつくること、そして学科の枠組みを取り外して医療系専門職で求められる〝知識（一般常識や医学的知識などの基礎知識とそれを応用した客観的判断能力や計画遂行能力）〟、〝技能（医療技術や表現能力）〟、〝態度（感情の抑制や他者への配慮などの人格的成熟）〟を習得させることを目的としている。四月下旬には、谷学長（七月より名誉学長）の講演を基にグループ討議で医療人としての資質を考えるように企画したり、五月中旬からの関連施設でのアーリーエクスポージャーでは医療現場の実際を体験させ、医療人としての行動がどうあるべきかを考えさせる機会を設けた。大半の学生にとって初めての経験であったためか、施設内で右往左往することが多く、残念ながら施設からの手厳しい批判や注意を受けた学生もいた。しかし、〝失敗は成功のもと〟と言われるように、学生は失敗しながら成長していくものなので、絶えず自己を省みながら成長していってほしいものである。

あじさいは土壌の質によって花の色や出来方が決まるとされている。学生も同様で、我々教員は学生が将来皆に頼りにされる医療人なれるような能力を築こうと日々試行錯誤しながら教育している。学生諸君も各々が目標を持ち〝輝ける人生〟を送れるよう、日々切磋琢磨してほしい。

気合の入ったかけ声と楽しそうな笑い声

理学療法学科三年　柔剣道サークル代表
藍場祐輔

国際医療福祉大学福岡リハビリテーション学部には、立派な武道場がある。私たち柔剣道サークルはこの武道場で日々互いに切磋琢磨している。

私が一年生のとき、武道場はあまり利用されておらず、いつも静まりかえっていた。私は中学・高校と柔道に励んでいたので、せっかくの武道場がもったいないように感じた。そこで柔道サークルを作ろうと考えたが、勉強も忙しく、まだ学校にも慣れていないこともあってなかなか行動に移せないでいた。二年生になってようやくサークル設立のために働きかけてみたが、柔道だけではサークルを作るための規程人数には足りなかった。そこで剣道経験者にも声をかけて協力してもらってやっと規定人数を満たすことができた。こうして柔剣道サークルとしての活動が始まった。

サークルのモットーはまじめに楽しく柔道・剣道をやることで、皆のびのびと練習に励んでいる。しかし、気を抜いていると怪我をすることが多いスポーツである以上、楽しみながらも真剣に取り組むことも忘れない。今年度は女子の新入部員も加わり、柔道・剣道特有の暑苦しさに少しだけ華やかさも加わった。人数も増え、華やかさも加わった今年度の目標は、大会に出場し日頃の練習の成果を存分に発揮することだ。勝ち負けにはこだわらない。ベストを出すことができれば、それはとても意義のあるものになると思う。

あの静かだった武道場は今、気合の入ったかけ声と楽しそうな笑い声が響いている。

トピックス Topics

医療福祉・マネジメント学科「新入生歓迎会」開催

五月九日（土）、夏を思わせる日差しが朝から照りつける中、「新入生歓迎会」が実施されました。多くの上級生が参加しましたが、特に二年生を中心とした三〇名の実行委員は、調理、設営、配膳兼誘導に分かれ、きびきびとした動きが頼もしく映りました。

九時に大学に集合、蛇尾川緑地広場までのオリエンテーリング、現地ではレクリエーション、そして実行委員と教員が作った豚汁や焼き物などに参加者全員が舌鼓を打ち、新学科の誕生にふさわしい連帯感を作り上げる「手作りの歓迎会」となりました。

オリエンテーリングは、安全に配慮しつつ、一六七名の新入生を一〇名程度のグループに分け実施、各グループは、ゴールまでの道のりをメンバー皆が智恵と気持ちを一つにして乗り切りました。あまりの日差しの強さに、運動会用テントを急遽増設しましたが、設営・撤去等目立たない場面でも、学生・教員の一致協力した姿が印象的でした。

調理では、朝七時から介護実習室で手作りメニューに取り組みました。環境保護を意識し、各自食器を持ち寄りとしたため、現地での配膳に手間取りましたが、こういった教訓も次回に繋げていける素敵な歓迎会でした。

（医療福祉・マネジメント学科　准教授　浅香勉）

言語聴覚学科「成人言語懇話会」開催

成人言語懇話会は、言語聴覚学科の卒業生のなかで、成人言語領域（失語症・高次脳機能障害や嚥下障害等）と成人発声発語領域（構音障害や嚥下障害）に就職した卒業生を対象とした「成人言語懇話会」を毎年定期的に開催している。そこでは、卒後教育の充実を図ると共に、研究活動の支援を行っている。また、職場で困っていることなどを気軽に相談できる場としても活用されており、卒業生同士の交流の場となっている。

今年度の第一回は、五月二三日、大田原キャンパスで開催された。参加者は、遠くは長野県から駆け付けた方を含む一五名の卒業生が集まった。まず、自己紹介とそれぞれの職場での様子を報告した。今年の三月に卒業した卒業生が多く、それぞれの職場で悩みながらも一歩ずつ言語聴覚士として歩み始めている様子が伺えた。

後半は、足利赤十字病院の川島さん（八期生）が症例報告を行った。非常に興味深い症例を詳細なデータと共に報告し、参加者間でディスカッションを行った。今年度本学科では、卒業生向けのメールマガジンの配信を開始した。本会や同窓会を通じて卒後教育の充実を図って行きたいと考えている。

（言語聴覚学科　助教　谷合信一）

「平成二一年度日本視能訓練士養成施設連絡協議会第1回総会」開催

六月五日、大阪国際会議場にて、平成二一年度日本視能訓練士養成施設連絡協議会第一回総会が開催された。当日は、本協議会加盟校二二校中二一校三二名が参加した。国際医療福祉大学視機能療法学科は、平成一九年度より事務局を担当しており、新井田孝裕学科長が会長を務めている。昨年度は、長年の懸案であった第一回教員研修を実施し、大変好評を博した。今年度も引き続き、八月下旬第二回教員研修を本学青山キャンパスにて実施予定である。また、視能訓練士の知名度を上げるための活動として、昨年度はリーフレットおよび一般向けポスターの作成、ホームページの立ち上げを行った。今年度はさらに、高校生向けポスター作成、ホームページの充実等、幅広い広報活動の展開を予定している。特にホームページに関しては、Q&Aや、卒業生の声欄を設け、高校生が興味を持ちやすいコンテンツを考えている。このように様々な活動を実施するに伴い、活動経費が必要となったため、昨年度、年会費をそれまでの一万円から五万円に引き上げた。今年度からは賛助会員を募集し、

私のおすすめ本 第12回

福岡リハビリテーション学部
理学療法学科　学科長
田原弘幸 教授

「成長するティップス先生―授業デザインのための秘訣集―」

池田輝政・戸田山和久・近田政博・中井俊樹著　玉川大学出版部

最近、学生教育の困難さに直面している。これまで考えてきた「教育観、実践してきた「方略」が一部の学生に受け入れてもらえないのである。しかもこの一部がだんだん大きくなっている。それで毎月の東京出張の際に「大学生・学びのハンドブック」、「アカデミック・スキルズ」、「知のツールボックス」、「東大合格生のノートは必ず美しい」など、具体的な対策本に目を通してきた。その中で、浅学な私を初心に帰らせてくれたのが本書である。

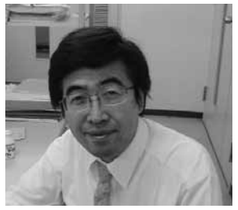
本書は、名古屋大学高等教育研究センターの「名古屋大学版ティーチング・ティップス」開発プロジェクトから生まれた大学教員のための授業の秘訣集（ティーチング・ティップス）であり、ウェブで公開したウェブ版を元に作成された普及版である。大学教員ティップス先生があれこれ悩み失敗しながらも一学期間の授業を終えるまでを日誌風に描いた「授業日誌編」と、コースの設計から自分の授業を反省する段階までの注意すべきこと、改善のためのヒントなど簡潔にまとめられた「授業の基本編」の二部構成である。

ウェブ上で公開されており、相互に補完的関係にある「ティップス先生からの7つの提案」も合わせて閲覧できる。教員編を見ると、提案1：学生と接する機会を増やす、提案2：学生間で協力して学習させる、提案3：学生を主体的に学習させる、などであり、それぞれに7つの実行可能なアイデアが提案されている。例えば、提案1については、①クラスの学生に出会ったら声をかける、②学生にオフィスアワーを積極的に利用するようにすすめる、③授業終了後しばらく教室に残り、学生の質問に答える、などである。本書は、大学の現在の課題であるFD活動の推進に貢献するものである。学生もウェブの改訂版にアクセスされることを勧めたい。

本協議会の目的にご賛同いただける法人および個人から賛助会費を集めることとなった。是非、皆様のご協力を仰ぎたい。今回の総会でも、各養成校からの貴重なご意見を多数いただくことができた。学生募集、また教員の質の向上に、事務局担当校として、やるべき事はまだたくさんあると、気を引き締めた一日であった。

（視機能療法学科准教授　三柴恵美子）

前田眞治教授が第二八回温泉関係功労者として表彰される



平成二一年七月一〇日、本学保健医療学部作業療法学科教授の前田眞治先生が「第二八回温泉関係功労者」として表彰を受けられました。

これは、環境大臣が、多年にわたる温泉療法の研究の先進的な取り組みと、温泉の保護と適正利用の推進に指導的役割を果たし、温泉行政の推進に貢献したことの功績を表彰するもので、今回表彰された一〇名の中で、前田先生は最年少での表彰となりました。

前田先生は、昭和五四年より三〇年の永きにわたり、日本温泉気候物理医学会に在籍し、温泉の保護と適正利用に関する普及啓発、学術研究に尽力されました。特に、平成一七年より環境省の温泉利用に関する掲示内容等についての医学的検討調査の委員長として調査研究に携わり、温泉の適正利用の推進に大きく貢献されました。

さらに、環境省の温泉行政の諸課題に関する懇談会委員を務めるなど、温泉行政の推進にも大きく貢献されました。

詳細は環境省のホームページにも掲載されています。

http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=11318

（本校総務課）

総合教育部授業紹介「人間と性」

総合教育科目として「人間と性」を開講し三年目を迎えた。年々受講者が増え、本年度は三三六名が履修している。オムニバス形式で、医療・保健、脳科学、人文学、語学等の様々な専門分野の講師から多様な切り口の講義を受けることができる。「男とは」「女とは」という結論を押し付けるのではなく、さまざまな知見や現状、考え方を紹介し、受講生自身がそれらの情報を統合し、自分なりの答えを見出してくれることを望んでいる。

初回に本科目のコーディネーター、小林真理子（臨床心理学）の授業で実施したアンケートでは、身体的差異や性格・役割等、ステレオタイプな特徴を「男らしさ」「女らしさ」を答える人が多かった。

第六回の学外から招聘した浅村里紗先生の授業では、宗教的、経済的な理由で、望まない妊娠を強いられ、妊産婦死亡率の高い地域が海外には存在するということを学び、「日本に生まれた自分たちがいかに恵まれているのかがわかった」という感想が得られた。

また、第八回の田中冨久子先生の脳科学からみた男と女のお話では、生まれながらの「セックス（性）」と社会化される過程で育まれる「ジェンダー」の違いや、ストレス社会を生き抜くための提言がなされた。

全授業を履修後に、初回に抱いていた受講者の「男らしさ」「女らしさ」のイメージがどう変化・進化していくのか、楽しみである。（総合教育センター　小林真理子）

「初期臨床研修医合同オリエンテーション」開催

国際医療福祉大学・高邦会グループは患者様中心に考える、質の高い医療を実践する医師を育成するために、平成一七年よりグループが一体となって「中央臨床研修委員会」を組織し、基幹型臨床研修病院（国際医療福祉大学病院、熱海病院、三田病院、高木病院）の支援、研修医の募集・合同研修の企画・指導医の養成等を行ってきました。

今年も四月一六～一八日の三日間、四病院の初期臨床研修医一九名が一堂に会して、合同オリエンテーションを開催いたしました。栃木地区と東京地区において、高木理事長、谷学長（当時）、北島副学長（当時）、岩尾副学長をはじめ多数の方々から示唆に富む講義をいただきました。特に本グループの理念、人格の涵養、医療安全などの

サークル紹介　第七回

天文部

天文部は、少ない回数の中で仲良く楽しく活動しています。部員数は少なく、掛け持ちしている人もいて、気軽に参加できる部活だと思います。活動は、月に一・二回程度を基本として、特に日にちは決めず、皆の予定を確認し、できるだけ多くの部員が参加できるよう活動予定を立てています。

今後の活動の一つとして、天文館のあるふれあいの丘での合宿を考えています。ふれあいの丘の天文館には天体観測室があり、六五ｃｍの反射望遠鏡が設置されていて、月や土星などの惑星を観望できます。屋外観望場では、昼は太陽望遠鏡で太陽の黒点やプロミネンスをみることができ、夜は１５ｃｍの屈折望遠鏡で反射望遠鏡と異なる天体をみることができます。さらに、スクリーン型のプラネタリウムが設置されており、その日にみえる星空についての説明や星の名前や星座について学ぶことができます。去年は、あいにくの曇り空で反射望遠鏡でみることができなかったので、今年は天気の良い日に行くことができたらと思います。

また、黒羽や那須塩原などにもいくつかスポットがあり、天気の良い日には大きい星から細かい星までよく観察でき、流れ星も何回もみることができます。

部員は、星が好きで入部した人、友達に誘われて入部した人など様々です。入部するきっかけは何でもありで、部員の皆が楽しく活動できるということが一番だと思っています。少しでも天文部に興味を持った方、星空や流れ星をみて癒されたい方、一度活動に参加してみてはいかがですか。

（医療経営管理学科二年　小室由香里）

お話は、医療のスタートをきった若き医師達にとって、非常に有意義な内容であったと思います。

今回の集まりは、まだ医療経験の浅い初期臨床研修医にとっては、今後の研修の方向性、将来の自らの医師像を考え自らを見つめる良い機会になったと思います。

最後に、開催にご協力いただきました皆様方に、心から御礼を申し上げます。

（医学教育研修センター長　天野隆弘）

「関連職種連携ワーク」がスタート

本学では、医療福祉の総合大学としての特長を生かした関連職種連携教育を積極的に展開しています。講義科目の「関連職種連携論」に加え、体験型演習を取り込んだ「関連職種連携ワーク」、そして「関連職種連携実習」へと、段階的なカリキュラムが組まれています。

このうち「連携ワーク」は、「保健・医療・福祉に携わる職種の専門性と関連性、チーム医療・チームケアの理念と実践方法を理解し、各職種が連携して課題を解決し、患者中心の援助を実践する基礎技能を修得する」ことを目的とし、異なった学科の学生九～十名で班を編成し、学生が主体的に関連職種連携のあり方について学ぶものです。今年度の履修登録者は九〇六名で、一一〇名の教員が各班をサポートして実施。六月一五日（月）には、「連携ワーク」の第一回目が実施されました。

教員の自己紹介、成績判定の方法、本講義の目的・到達目標などの説明の後、グループ分けが行われました。ここで、グループ毎のテーマ設定の方法が伝えられ、さらに、グループ内での自己紹介、役割分担などが決められました。

今後、夏休みをはさんで計七回実施され、七回目の一〇月二四日には発表会が予定されています。

『コラボレーションが不可欠』

教務部長　言語聴覚学科長　藤田郁代教授

今の医療や福祉は専門分化が進んでいて、患者さんのために自分の知識や技術を生かすためにはコラボレーションが不可欠。そのための連携能力を、学生のうちから養っておくことが必要です。

今回は初回でしたが、コミュニケーションの初歩、「自分のことを他者に理解してもらう」「他者を理解する」を通じて、信頼関係を築く第一歩を踏み出しました。

その信頼関係を深めるために、押したり引いたりしながら、じわっと、連携やグループができあがっていく、その過程がよい学習になっていると思います。

学生の皆さんはこの実習を通じて、必ず将来の自分の専門性を生かせるようになるので、プロセスを楽しみながら活動を進めてください。結果は必ずついてきます。発表会を楽しみにしています。私たちもこの実習で教員として、成長します。皆さんも一緒に成長しましょう。

私の主張　第12回　研究者のマインド

薬学部・薬物動態学教授　久岡正史

私が通っていた田舎の小学校の図書室にあった偉人伝記の一冊。福島県、現・猪苗代町に生れ、貧困と幼いときのやけどという試練を乗り越え、功成り名を遂げた人物、またアフリカで研究中の黄熱病に自ら感染して倒れた非業の世界的研究者、野口英世博士。日本人では知らないものはいない伝記を何度となく読んでいた私は、三年生の〝将来の夢〟では博士になること、を宣言した。その後、特に意識したわけではないものの、不思議なもので、何となく研究者の道を歩み、博士号を取得した。しかし、野口英世の研究業績はというと、当時見出されていなかったウイルスの存在でその偉大さを失い、多くの病原体を突き止めたという成果は、現在ではほとんどが顧みられなくなってしまっている。彼が生涯をかけて研究した黄熱病も、また狂犬病もその病原体は、当時の顕微鏡精度では見えなかったウイルスによるものだった。見ようとして見えなかった病原体を見えるはずとの思い込みによる誤った発見であったのかも知れない。研究者がいつも持っていなければならないマインドは、科学の世界で〝絶対〟と表現できる事象はほとんどないという謙虚さであろう。新規な発見をした時は過誤の可能性を疑い、綿密かつ細心の検討を加えながら、その発見の正当性を証明していく必要がある。そうした努力なくして功を急いでの性急な発表は、誤った結論を提示することにもなり、ひいてはその研究者の評価を損ね、すべての研究成果さえも疑問視されることになりかねない。

一九八二～八四年の二年半、私が留学したニューヨーク州立大バッファロー校は、生物薬剤学の著名な学者が在籍していた。私は、薬物動態学の第一人者Ｇ・Ｌｅｖｙ教授の研究室にいたが、常日頃彼の研究に対する真摯な姿勢には心服させられた。彼の生活ほとんどが研究第一のものであり、研究の中断が余儀なくされる可能性のあるレジャー等はすべて避けていた。研究方針や実験データについては、白人特有のエネルギッシュさで綿密に内容が検討されたうえで、必要な試験が追加される。夕刻６時にスタートしたセミナーは、時として翌朝の２時、３時まで続いた。それだけ研究に情熱を注いできた学者に、一番楽しみにしていることはと質問した時、研究の第一線を退いて人生を楽しむことだ、との答えが返ってきたのに私は驚いた。Ｌｅｖｙ教授はユダヤ人で第二次大戦時にアメリカに亡命し、苦労を重ねて薬物動態学を体系化した創始者ともいえる人である。研究をいかに真摯にとらえ、いかに長年努力したかということ、その結果として達成感を得ていることがうかがわれる一言であった。謙虚で誇りある研究者のマインドを持ちたいものである。

看護学科の公開学習会に奮ってご参加を

恒例となりました看護学科の公開学習会、今年のテーマは「ストレス」です。

テーマ：ストレスをナーシング・パワーに変える

日時：九月十二日（土）十時～十六時

参加費：四〇〇〇円（資料・昼食代込）

定員：八〇名

学習会の講師には当看護学科の今井栄子をはじめ、ストレスに造詣の深いゲスト講師をお招きしました。お一人は、薬学部長の武田弘志教授です。武田教授には、ストレスの基礎知識から最新の研究成果について講演いただきます。もうお一人は、ビジョンダイナミックス研究所所長の栗原英彰さんです。栗原さんには、SIQという知能指数（知能指数であるIQ・感情の知能指数であるEQ・スピリチュアルの知能指数であるSQの総合的知性）を用い、まず参加者の心の成長段階を測定します。次に、その段階に合わせたストレスマネジメントについて講演いただきます。

ストレス医学に関心のある人や、元気に看護したい人にはうってつけの機会です。まだ、お席に若干の余裕がありますので、電話でお問い合せください。皆様のご参加をお待ちしています。

問合せ：二四―三〇七一（川野・阿久津）

医療福祉・マネジメント学科「イブニングタイム」のお知らせ

今年度は「賢く使おう、医療・福祉サービス」というテーマで、十月八日から十一月二六日までの計八回、毎週木曜日に開講します。

今年の企画は医療福祉・マネジメント学科が担当します。新学科の初イベントとして、医療と福祉の専門職の視点を統合した、生活を守るサービスのご提案をします。

	日程	テーマ	講師(敬称略)
第1回	10月8日	上手な病院のかかり方 ―最先端のがん医療を知ろう―	北島政樹 丸木一成
第2回	10月15日	上手な医療・福祉サービスの選び方	小林雅彦 丸木一成
第3回	10月22日	知れば得する医療・福祉サービスのお金の仕組み	大西正利 林和美
第4回	10月29日	患者の味方：医療ソーシャルワーカー報告	小嶋章吾
第5回	11月5日	がんと生きる人を支える専門職	田中千絵
第6回	11月12日	地域で支える認知症	須藤昌寛
第7回	11月19日	心の健康、どうさせる？	上島国利 相原和子
第8回	11月26日	みんなでつくろう日本一の医療福祉のまち	蓮實浩（大田原市副市長） 丸木一成 小林雅彦

教職員、学生の皆さん、奮ってご参加ください。

（医療福祉・マネジメント学科　加藤尚子）

学生アンケート結果の概要

昨年度末に大田原キャンパスの全学生四四一七名を対象にし、調査期間を過去一年間とした学生アンケートを行った。三四七一名の学生より回答を得、回答率は86％であった。その結果がまとまったので概要を紹介する。

【居住スタイル】では75％が「アパート」、25％が「自宅」、**【通学手段】**は63％が「車」通学になっている。**【生活費】**については、「十分に足りている」と「足りている」を併せて74％であるが、「やや不足がちである」が23％、「生活困窮に近い」が3％であった。

【事件・事故】では、「盗難事件にあったことがある」が393件（11・5％）で、特に多いのが二輪車盗難の96件であった。「傷害事件にあったことがある」が34件（1％）、「性犯罪にあったことがある」あるが129件（3・7％）で、「痴漢」、「ストーカー」、「露出狂」が目立つ。傷害事件や性犯罪の被害者になる危険性があることを考えて、夜間の外出を控える、窓やドアの戸締りを確認する、などの防犯対策が重要である。「悪質商法被害にあったことがある」は231件（6・7％）で、しつこい新聞勧誘」、「架空・不当請求」が多い。

【交通事故】については「人身事故の加害者になったことがある」が81件（2・4％）、「人身事故の被害者になったことがある」が184件（6・6％）、「物損事故の加害者になったことがある」が325件（9・5％）、「物損事故の被害者になったことがある」が192件（6・6％）になっている。実に多くの交通事故が起きているが、特に加害者になったケースでは自動車運転中の事故が、また、被害者になったケースでは自動車運転中と自転車使用中の事故が多い。自分が加害者にも被害者にもなる危険性があると考えて、常に注意する必要がある。

【ボランテア活動】については「参加したことがある」が45％になっている。また、ボランテアセンターがあることを知っているか」では19％の学生が「知らない」と答えており、本学が力を入れている取り組みが一部学生には伝わっていない。

【図書館】に関しては、「貸し出し冊数および貸し出し期間」が「現行でよい」が70％でこれは平成18年度アンケート調査での38％に比較して大きく変化した。これは前回アンケート結果を受けて貸し出し冊数および貸し出し期間が変更された効果と考えられる。

一方で、「増席するならどんな席を増やして欲しいか」に対して「自習のための席」という回答が77％あり、自習のための場所の確保に苦労していることが窺える。

【学内施設満足度】では「とても満足」と「まあ満足」を併せて、カフェテリアが46％、コンビニが57％、書籍売店が66％、運動施設が52％、サークル棟が39％、教務窓口が63％、学生課窓口が69％、クリニックが52％となっており、全体的にはまだ十分な満足度とは言えそうにない。

アンケートには自由記述欄があり沢山のコメントが出されている。大学としてはこれらのコメントを含めアンケートの内容を検討し、計画を立てて改善を進めていくことにしている。

（学生委員会）

平成二一年度奨学生決定

本年度の「ニッセイ同和損害保険株式会社奨学生」一〇名、及び「国際医療福祉大学奨学生」二七名が、厳正な審査の結果、次のように決まった。

○ニッセイ同和損害保険株式会社奨学生

五月二五日、東京都中央区の新阪急ホテルにおいて、同社の岡崎名誉会長、須藤会長、立山社長、本学の高木理事長、谷学長、岩尾副学長、佐々木学生部長らの列席のもと、同奨学生一〇名の認証式が行われた。

この奨学生制度は、保健、医療、福祉の有為な専門職の育成を目指す本学の趣旨に賛同した同社により、平成九年に同社創立一〇〇周年記念事業の一環として設けられた。奨学金は原則として卒業まで支給され、返還の必要はない。

この制度により、平成二〇年度までに一〇一名の学生が学んでいる。なお、今年度の応募者は三九名だった。

○国際医療福祉大学奨学生

国際医療福祉大学奨学生の表彰式は、大田原キャンパスが六月二三日、福岡リハビリテーション学部が六月二七日、小田原保健医療学部が七月一七日に行われた。

この制度では、年間授業料の半額が減免になる。

（本校学生課）

■奨学生氏名

ニッセイ同和損害保険株式会社奨学生（平成二一年度新規生）

●保健医療学部
- 看護学科
  - 村社若菜（2年）
  - ムンフサイハン・バヤルマー（1年）
- 作業療法学科
  - 宇佐美知美（2年）
  - 大谷智英（2年）
- 言語聴覚学科
  - 板倉天子（2年）
- 視機能療法学科
  - 山本利奈（2年）
- 放射線・情報科学科
  - 小森慎也（2年）
- 小田原保健医療学部
- 理学療法学科
  - 鶴見知香（2年）
- ●福岡リハビリテーション学部
- 理学療法学科
  - 倉田大幹（2年）

国際医療福祉大学奨学生

●保健医療学部
- 看護学科
  - 村上友佳子（2年）
  - 関口ひかり（3年）
  - 原美代子（4年）
- 理学療法学科
  - 村田聡（2年）
  - 木村和樹（3年）
  - 安部泰広（4年）
- 作業療法学科
  - 六本木夏季（2年）
  - 秋元みなみ（3年）
  - 本間千尋（4年）
- 言語聴覚学科
  - 坪井美代子（2年）
  - 北上守俊（3年）
  - 北山藍（4年）
- 視機能療法学科
  - 中村怜美（2年）
  - 鈴木舞（3年）
  - 村田憲章（4年）
- 放射線・情報科学科
  - 吉野優人（2年）
  - 土屋俊博（3年）
  - 鈴木健太（4年）
- ●医療福祉学部
- 医療経営管理学科
  - 高畑未知也（2年）
  - 高橋美穂（3年）
  - 池田望（4年）
- 医療福祉学科
  - 江田佑貴（2年）
  - 大和田成美（3年）
  - 小池弥生（4年）
- ●薬学部
- 薬学科
  - 高橋舞（2年）
  - 星野智早（3年）
  - 清水香那子（4年）
- ●小田原保健医療学部
- 看護学科
  - 遠藤寛美（2年）
  - 一ノ瀬唯（3年）
  - 岩崎麻里絵（4年）
- 理学療法学科
  - 井出貴子（2年）
  - 二見健太（3年）
  - 御園衛（4年）
- 作業療法学科
  - 江本沙希（2年）
  - 落合翔子（3年）
  - 柴田和佳（4年）
- ●福岡リハビリテーション学部
- 理学療法学科
  - 森野早紀（2年）
  - 坂口愛実（3年）
  - 相馬加奈子（4年）
- 作業療法学科
  - 奥園絵理加（2年）
  - 千代田藍（3年）
  - 夜久加代子（4年）
- 言語聴覚学科
  - 河野久美（2年）
  - 永田梨乃（3年）

平成二〇年度学校法人国際医療福祉大学決算報告

平成二〇年度は、薬学部と福岡リハビリテーション学部が開設四年目の完成年度となり、本学の中長期計画の節目となる年であった。これらの新設学部の整備を進めながら、当期は減価償却前利益で約二五億円（対前年度二億円増）を確保することができた。また、基本金は四二六億円に達し、計画通りに各学部の教育施設・設備の充実が図られていることを示している。今後は平成二一年度に小田原保健医療学部、平成二四年度に福岡看護学部が完成年度を迎える。六学部、大学院を含む学生数で六五〇〇名超規模の大学となり、財務健全性はさらに強固なものになると見込んでいる。

（経理部副部長　永田一郎）

貸借対照表 平成 21年 3月 31日

（単位：千円）

科目	本年度末	前年度末	増減
資産の部			
固定資産	42,141,962	41,835,282	306,680
有形固定資産	41,321,539	41,075,966	245,573
土地	11,963,326	11,965,016	△ 1,690
建物	21,701,286	21,204,373	496,913
構築物	1,261,784	1,249,084	12,700
教育研究用機器備品	4,515,020	4,671,497	△ 156,477
その他の機器備品	1,093,347	1,226,277	△ 132,930
図書	626,298	585,972	40,326
車輌	23,053	12,123	10,930
建設仮勘定	137,425	161,624	△ 24,199
その他の固定資産	820,423	759,316	61,107
借地権	2,190	2,190	0
電話加入権	4,717	4,488	229
水道施設利用権	361	361	0
有価証券	125,000	125,000	0
長期貸付金	88,646	74,220	14,426
差入保証金	589,509	543,057	46,452
学科増設引当特定資産	0	0	0
長期預け金	10,000	10,000	0
流動資産	8,683,514	8,598,523	84,991
資産の部合計	50,825,476	50,433,805	391,671
負債の部			
固定負債	7,896,072	8,741,223	△ 845,151
流動負債	9,321,986	8,916,702	405,284
負債の部合計	17,218,058	17,657,925	△ 439,867
基本金の部			0
基本金の部合計	42,612,238	40,592,080	2,020,158
消費収支差額の部			
翌年度繰越消費支出超過額	9,004,820	7,816,200	1,188,620
消費収支差額の部　合計	△ 9,004,820	△ 7,816,200	△ 1,188,620
負債の部、基本金の部および消費収支差額の部　合計	50,825,476	50,433,805	391,671

消費収支計算書

本年度(自　平成20年4月1日　至　平成21年3月31日)
前年度(自　平成19年4月1日　至　平成20年3月31日)

学校法人国際医療福祉大学

（単位：千円）

科目＼摘要	本年度	前年度	増減
消費収入の部			
学生生徒等納付金	7,888,328	7,180,412	707,916
手数料	172,006	190,453	△ 18,447
寄付金	519,721	630,009	△ 110,288
事業収入	277,060	291,987	△ 14,927
医療収入	22,619,123	21,121,871	1,497,252
資産運用収入	113,841	19,237	94,604
補助金	785,269	956,288	△ 171,019
雑収入	243,849	305,582	△ 61,733
資産売却収入	0	216,563	△ 216,563
帰属収入合計	32,619,197	30,912,402	1,706,795
基本金組入額	△ 2,020,157	△ 871,734	△ 1,148,423
消費収入合計	30,599,040	30,040,668	558,372
消費支出の部			
人件費	13,062,834	12,635,217	427,617
教育研究経費	2,534,997	2,542,207	△ 7,210
医療経費	9,306,146	8,678,430	627,716
管理経費	6,715,272	6,201,713	513,559
借入金等利息	159,211	164,272	△ 5,061
資産処分差額	0	0	0
徴収不能引当金繰入	9,200	0	9,200
消費支出合計	31,787,660	30,221,839	1,565,821
消費収支差額	△ 1,188,620	△ 181,171	△ 1,007,449

施設インフォメーション News : Affiliated Facilities

▼ 国際医療福祉大学病院 ☎0287-37-2221 http://www.iuhw.ac.jp/hospital/mainpage.htm

附属病院

国際医療福祉大学病院

国際医療福祉大学と国際医療福祉大学病院は、大田原市・那須塩原市の共催により市民公開講座を四回シリーズで開催しております。

総合テーマを『「がんを知って、がんを治そう」～発がんリスクの低減と早期発見・早期治療～』と題して、代表的ながんの性格と治療法などについてわかりやすく解説します。

開催日程…平成二一年六月二五日を初回として九月二四日までの第四木曜日の計四回

開催時間…一八時～二十時三十分

会場　…国際医療福祉大学　F一〇一大講義室

テーマ　…第一回　六月二五日（木）
肺のがん
消化器のがんⅠ

第二回　七月二三日（木）
消化器のがんⅡ
泌尿器のがん

第三回　八月二七日（木）
消化器のがんⅢ
脳しゅよう

第四回　九月二四日（木）
女性のがん
乳がん

講師　…国際医療福祉大学病院
病院長　蘇原泰則・他

第一回目、二回目を、去る六月二五日（木）、七月二三日（木）に実施しました。第一回目は約百三十名の参加、第二回目は約二百名の参加があり、熱心にメモをとる姿が数多く見受けられ、質疑応答では時間が足りなくなるなど、市民の方のがんに対する関心が高いことが分かりました。また、内容についてはいずれも具体的でわかりやすいと好評をいただいております。

がんは、もはや不治の病ではありません。適切な予防対策、適切な健診受診、適切な治療を行えば、かなりの患者さんが治ります。そのためには、「がん」のことを良く知る必要があります。この市民公開講座はこのようなことを目的とし、各診療科の先生方の協力を得て開講するものです。

（総務課）

▼ 国際医療福祉大学塩谷病院

附属病院

国際医療福祉大学塩谷病院

看護週間のイベントを五月一四日から五月一六日の三日間実施いたしました。五月一四日・一五日は一階エントランスホールにて血圧・体脂肪測定・看護相談実施しました。血圧測定は七三名、体脂肪測定は五四名の方に受けていただきました。五月一六日には高校生を対象に「ふれあい看護体験」を行いました。参加した高校生は午前・午後合わせて総勢二三名でした。

坂主リツ看護部長から看護師の心構えを聞いた後、高校生は白衣に着替え、病院の病棟に移り、入院患者の手や足を洗ったり、患者を車いすに移したり、会話をしたり、病院内を散歩するなど看護を体験しました。

体験実施後、参加した高校生全員にアンケートを実施しました。一部を紹介します。

Q．ふれあい看護体験参加の動機は何ですか。
①看護師の仕事が知りたい　一九名
②福祉の仕事を知りたい　三名

Q．ふれあい看護体験でどの体験が良かったですか
①手浴　一二名
②車いす散歩　一一名
③血圧測定　七名
④ストレッチャー体験　七名

Q．体験を通して、看護師になりたいと思いましたか。
①思った　一七名
②思わなかった　〇名

参加した高校生からのお礼の手紙を抜粋して紹介します。

「この体験を通じて看護師と患者様とのコミュニケーションの大切さを実感することができました。改めて看護への関心が高まりました」

とても初々しい文章であると感じると同時に、私たちは、医療機関に長年従事しているが故の甘えや奢りがないかと考えさせられ、身の引き締まる思いがしました。

また、このふれあい看護体験を通じ、看護師および医療機関での勤務に興味・憧れ・夢を抱いている学生がこれだけいるということを改めて実感しました。

最後に、併設されている看護専門学校見学を実施。砂川教務主任の看護学生になる心構えを教えていただき、終了となりました。

（看護部）

手洗い介助

車イス介助

▼ 国際医療福祉大学附属三田病院 ☎03-3451-8121 http://mita.iuhw.ac.jp/

附属病院

国際医療福祉大学三田病院

小川病院長ご挨拶

このたび、二〇〇九年六月より国際医療福祉大学三田病院の病院長を拝命致しました。病院長として微力ながら病院の発展に尽くす決意でおります。

三田病院の「東京都認定がん診療病院」としての機能を更に充実させていくとともに、内科では、私自身が現在（社）日本循環器学会理事長を務め、循環器内科を専門としておりますので、三田病院における循環器診療を日本のトップクラスに押し上げる気概でのぞみます。そのために、最新の診断と治療機器等新しいシステムを導入して、心臓病センター（仮称）を新設する予定でおります。狭心症、心筋梗塞、心不全、不整脈、弁膜症、高血圧等の循環器疾患の予防から急性期医療へも対応できる体制を整備し、患者様に信頼して頂ける診療を提供していきたいと思っております。

一方、大学病院として、本学の各学部・学科を中心に、学生の臨床実習の場を充実させて参ります。

二年後には隣接地に新病院が完成予定で、患者様に優しい、最高のアメニティーを備えた新生三田病院に向けて、職員の皆様と一丸になって努力して参りますので、どうぞご期待頂きたいと存じます。

新病院の起工式が行われました

二〇〇九年七月十三日、三田病院隣地の新病院建築予定地において、起工式が行われました。八〇名を越える来賓ご列席の中、高木理事長、北島学長、小川院長らによる鍬入れの儀や玉串奉奠等の神事が粛々と執り行われました。起工式後の直会には、武井雅昭港区長、赤枝恒雄港区医師会長、日本たばこ株式会社住川雅明代表取締役副社長をはじめとする関係各位にもご臨席いただきました。

新病院完成予想図

二〇一一年末を目途に竣工予定の新病院は、地上一一階地下二階、延べ床面積は約三六、七〇〇平米と、現病院の二倍以上の広さの設計となっています。新病院においては、東京都認定がん診療病院としての機能の充実を図ることに加え、脊椎・脊髄センターなど既存の診療科の強化を行い、また新たに心臓病センター（仮称）を設置するなど、引き続き地域の皆様に信頼され、安心してご利用いただける医療機関となるよう、職員一同全力を尽くしてまいります。

（総務企画課）

▼ 国際医療福祉大学熱海病院 ☎0557-81-9171 http://atami.iuhw.ac.jp/

附属病院

国際医療福祉大学熱海病院

【第三九回熱海病院院内学術懇話会】

当院では院内学術懇話会を定期的に開催し、各部署間の情報交換や各職員の技術レベルの向上に役立てています。

五月二二日（金）に第三九回目の院内学術懇話会が開催されました。演題は左記の通りで、約一一〇名の職員の参加により活発な意見交換が行なわれました。

●臨床検討会
（司会：栗山学　泌尿器科教授）
・癌幹細胞　～発癌機構の解明と治療への応用～
関厚佳（内科）
・人間ドックの現状分析　～脂肪肝とメタボリックシンドロームについて～
菅沼育子、稲本今日子、浅野栄子、広瀬りさ、村山京三、折居喬（予防医学センター）

●第三六回ＣＰＣ
（司会：原田俊一　脳神経外科教授）
・糖尿病を基礎に多彩な病状を呈した八三歳女性例
臨床：山田佳彦、上田亜紀（内科）
武藤隆志（研修医）
病理：北村創（病理学）

【第一六回熱海病院公開講座】

六月七日（日）に、熱海市観光会館において、「メタボリックは危険の予兆～心臓血管病の予防～」をテーマに、第一六回目の公開講座が開催されました。

①脳梗塞の予防
篠永正道（脳神経外科教授）
②心筋梗塞の予防に知っておきたいこと
重政朝彦（循環器内科教授）
③代謝内科からみた動脈硬化予防
上田亜紀（糖尿病・内分泌医員）
④予防で使う薬と健康食品
鈴木高弘（薬剤部係長）

当日は天候にも恵まれ、約二五〇名の市民の皆様が来場されました。また今回は、講演と同時に開催される当院看護部主催のメディカルチェックにおいて、小田原保険医療学部看護学科の学生八名がボランティアとして参加し、来場者の血圧や身長・体重等の測定補助を行ないました。

ご参加頂いた皆様ありがとうございました。当院では、今後も公開講座が地域住民の皆様にとって有意義なものとなるよう努力してまいります。

（総務課　篠原拓真）

▼ 山王病院　☎03-3402-3151　http://www.sannoclc.or.jp/

臨床医学研究センター（東京地区）

山王病院

『新生児蘇生法講習会』

山王病院の特徴のひとつ、出産。

当院では年間に７００件ほどの出産を取り扱っていますが、ともなれば当然それに伴う適切な対応が求められるのは言うまでもありません。なかには、生まれてすぐの赤ちゃんに迅速かつ的確な処置が必要な場合もあります。

そこで、今年度から定期的に行なわれているのが『新生児蘇生法講習会』です。これは、新生児蘇生法インストラクターの資格を持つ、小児科佐久間先生自ら発案され始まった講習会です。先生ご自身で講師を務められ、院内の先生方や看護師が受講しています。

講習会は、講義、実技とペーパー試験で構成されており、見事試験に合格した暁には、学会より資格も与えられます。

上の写真はその実技の様子ですが、ちなみにこの写真、こうしてみると本物の赤ちゃんを使って研修を行なっているように見えます。がしかし、この赤ちゃん実は訓練用の模型なのです。かなりよくできた模型で、近くで見ても一瞬本物かと思うほど。あまりにリアルで精巧な造りをしているので海洋堂の製作かと疑うほどであります。

実習の内容は、『軽度呼吸抑制新生児』『新生児仮死』などのシナリオによるロールプレイング形式で行なわれます。その状況に応じて判断し、適切な順序で正確な処置を行なう実習です。写真のようにバッグ・マスクを用いて人工呼吸を行なったり、口腔内や気管内吸引を行なったりと、実際の現場さながらの処置を行ないます。ケースによって処置の内容が異なるため、次に何を施せばいいのか、とても対応が難しいようです。しかし、このように日々様々な実習を重ね、経験することで、スタッフの手技を向上させ、出産に伴う危険を少しでも軽減させたいというのが、講習に参加する先生や看護師の方たちの医療に対する思いのようです。

（山王病院　総務・企画課）

▼ 化学療法研究所附属病院　☎047-375-1111　http://www.kaken-hp.or.jp/

臨床医学研究センター（東京地区）

化学療法研究所附属病院

心臓カテーテルと院内ＢＬＳ・ＡＣＬＳ講習開催について

本年四月より、心臓カテーテル治療室をオープンさせ、現在、週八例のペースで冠動脈造影や、両心カテーテル検査、下肢の動脈造影検査ならびにＰＣＩ・ＰＴＡ（手足の動脈治療）を開始しています。これら検査・治療を行う大前提として、心電図モニター講習・心臓カテーテルの基礎などの院内講習も行いました。

さらに医師・看護師その他のコメディカルスタッフへの救命講習も始めました。まず、メディカル・コメディカル有志にＢＬＳ（Basic Life Support：一次救命処置）へルスケアプロバイダーコースの講習を受けるように薦め、アメリカ心臓協会公認ＢＬＳヘルスケアプロバイダーの資格を取得して戴きました。この資格を取得した看護師の協力で、月一回、全職員対象の院内ＢＬＳ講習を開催し、実技とテストにより、一次救急のスキルを学んでいます。

心臓カテーテル

●目の前で意識を失い倒れてしまったら

① 30回の胸骨圧迫（分速１００回）
② ２回の人工呼吸
③ ＡＥＤ（自動対外式除細動器）を装着
④ 徐細動が必要な場合、安全確認後、電気的細動を行う
⑤ 胸骨圧迫を再開する。

さらにＢＬＳヘルスケアプロバイダー資格取得者には、ＡＣＬＳ（Advanced Cardiac Life Support：二次救命処置）プロバイダーの資格取得をお薦めしており、今後はＡＣＬＳプロバイダー取得者の増加を待って、コメディカルスタッフ対象のＡＣＬＳ講習も企画しています。

講習を受けたことがあっても、その知識と技術がいつでも引き出せなければ意味がありません。院内で発生した救命処置は一刻を争うものであり、日々の修練による救命処置は予後の大幅な向上を見込むと思われます。繰り返し行うことによりこれが可能になると考えています。循環器医が心臓カテーテルを始めたことにより『救うべき命を救う使命感』を化研病院全員で共有できるようになればとスタッフに呼びかけています。

ＢＬＳ講習

（循環器内科副部長　今泉孝敬）

▼ 高木病院　☎0944-87-0001　http://www.kouhoukai.org/takagi/

臨床医学研究センター（九州地区）

高木病院

自分たちに何ができるのか

最近、「未病」という言葉をよく見たり、聞いたりしませんか。結構、市民権を得たようにと思います。

当院の地元大川市で「未病と健康のつどい」を六月七日、同市文化センター大ホールで開催、一般市民ら約六〇〇人が熱心に聴講しました。

三回目を迎え、地域の一大イベントに成長したこの催しは地元大川市と日本未病システム学会の主催。国際医療福祉大学福岡リハビリテーション学部の共催。大川三潴医師会などの後援で行われました。

大川市が名義と会場・駐車場を提供、日本未病システム学会が資金を提供、高木病院が事務局と当日の運営を引き受けました。日本未病システム学会の常任理事が高木病院の山本匡介院長なので、事実上、高木病院の主催と地元では受け取られています。

今回は「大丈夫ですか？あなたのカラダ～名医が語る予防と治療～」と題し、心臓病、脳卒中、糖尿病を取り上げました。山本院長と福岡大学、佐賀大学、久留米大学の教授クラス三氏の特別講演という構成で文字どおり中身の濃い内容でした。

挨拶する高木病院の山本院長

講演会や公開講座などの担当者の最大の悩みは、当日の聴講者の確保ではないでしょうか。この催しは事前申し込み制はとっていませんので、ふたを開けて見なければ分かりません。多すぎる心配もありますが、ガラガラだったらどうしようかと心配は尽きません。

今回の「未病と健康のつどい」の周知を図る媒体はお金のかからないチラシや市報・会報、各新聞の情報面を活用しました。チラシは大川市内全所帯に市報に中入れして一万四千枚、大川・柳川商工会議所会報に中入れして三千枚、グループ内施設に２千枚、院内で二千枚など計三万枚をばらまきました。チラシの効果は講演会の内容、演者、時期などによって変動はありますが、まいたチラシ枚数に対する集客率は一～二％と私どもは考えていますが、皆さんの地域ではいかがでしょうか。

会場は熱心な聴講者でいっぱい

アンケート結果を見ても、「チラシを見て」が八割と一番多かったのが印象に残っています。

病院が何をやりたいのか。地域から何を求められているのか。そして自分たちに何ができるのか。今回の講演会は基本に立ち返って自問自答する良い機会になったように思います。（広報室　鶴田憲司）

▼ 福岡山王病院

臨床医学研究センター（九州地区）

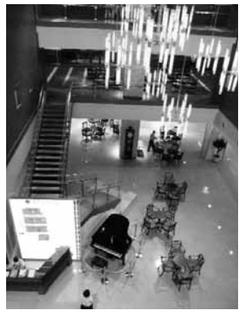
福岡山王病院

福岡山王病院が開院、順調なスタート

福岡市早良区百道浜に五月一日開院した福岡山王病院は、入院や人間ドックを受診される方々をお迎えするなど順調に滑り出し、総勢四〇〇名余のドクターや医療スタッフ、職員は一丸となって張り切っています。

百道浜は福岡市が全国に先駆けて開発に取り組んだ臨海新都心で、テレビ局や情報関連企業、高層オフィスビル、高級マンションなどが林立していますが、その中でも地上一一階（地下二階）の福岡山王病院は、気品と斬新さを兼ね備えた風格を誇り、ひときわ目立っています。高級ホテル並みの仕様の一九九床の病室は全室個室で、眺望のよい七階から一一階に設置されていて、海側の病室からは福岡市のランドマーク・福岡タワー（高さ二三四ｍ）が目の前に望めます。

糖尿病治療のため五月上旬に入院された会社経営の男性患者様は、「病室は落ち着いた雰囲気で居心地がいい。窓からの眺めも最高。忙しい合間を縫って入院したが、ゆっくり休養できる」とご満足の様子でした。



順調にスタートした福岡山王病院エントランスホール

福岡山王病院が力を入れている予防医学センターには、人間ドックや脳ドックの予約が日を追うごとに増えています。人間ドック専用フロアの六階に各種検査室が集中しているため、検査着姿で階を移動せずに済むのも好評のようです。人間ドック受診者の方が利用できるプールやジムなどの施設も評判がよく、岩盤浴（女性専用）でゆったりとくつろがれる女性も少なくありません。

五階にあるレストランは、落ち着いた雰囲気の中で高級ホテル並みの料理が楽しめるとあって、ドック受診者の方だけでなく、近くにお住まいの方々も家族連れでお立ち寄りいただくようになりました。

より多くの市民の方に福岡山王病院の「快適で質の高い医療」について知っていただくのが、現在の最大の目標ですが、地元テレビ各局の情報番組や新聞、雑誌などで取り上げられており、当病院の存在は確実に浸透しています。

院内のレストラン「オーヴ」は見学に訪れた地域の方々にも好評

（総務課広報　川崎　修）

スカパー！ Health & Welfare 774 「医療福祉チャンネル774」おすすめの番組

医療福祉チャンネル774では、スカパー！の774チャンネルで、医療・福祉・健康・介護に関する教育、教養、情報番組を放送！

国際医療福祉大学大学院乃木坂スクール　～医療福祉に関心があり、最新の医療事情を学びたい方に～

食べる機能の障害に対するリハビリ

摂食・嚥下リハビリテーションの実際

高齢化社会になるにつれて、加齢や疾病などによって上手に食べられない人がクローズアップされてきました。摂食・嚥下障害は水分・栄養の摂取が困難になるだけでなく、生きる喜びをも失います。番組では、食べる機能の障害に対してどのようなリハビリテーションを行うかを、実技と共に解説します。

コーディネーター：柴本勇氏
（本学大学院准教授）

地域連携コーディネーター養成講座

地域連携クリティカルパスと退院支援

地域連携クリティカルパスや退院支援・在宅医療における医療・介護連携の実践にかかわる諸問題を取り上げます。そして、病院の連携業務に携わる方、ケアマネジャー、訪問看護ステーション、地域包括支援センター、保健所、製薬メーカー、医療関係出版社等の方々と共に学んでいきます。

コーディネーター：武藤正樹氏
（本学大学院教授）

スカパー！◆インターネット　774視聴者特典　無料配信中！

医療福祉専門チャンネル動画配信サイト
医療福祉ｅチャンネル　www.ch774.com,

福祉住環境コーディネーター２級受験講座

住みやすい住環境を提案するアドバイザー

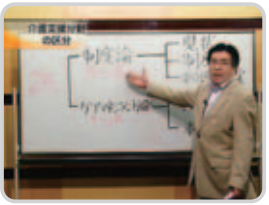
福祉住環境コーディネーターは、医療・福祉・建築について幅広い知識を身につけ、バリアフリー住宅への建て替えやリフォームのコーディネートを提示します。また、福祉用具や諸施策情報についてアドバイスするなど、幅広いニーズのある資格です。番組は、単元別と、傾向と対策編の2部構成です。

田中繁氏（本学大学院教授）

ケアマネジャー受験講座2009

介護保険制度の中核を担うスペシャリスト

ケアマネジャー試験は、問題の難易度が年々高まっています。本講座の特長は、介護保険制度構築にかかわった人、ケアマネジメントの第一線で活躍する人から直接学べること。さらに、介護保険制度・関連制度の動向や過去問題の徹底分析から、出題傾向をズバリ予測します。



林和美氏（本学講師）

●医療福祉チャンネル774を見るには

「医療福祉チャンネル774」はスカパー！の774チャンネルでご視聴いただけます。
ご視聴には、スカパー！専用アンテナ＆チューナーをお部屋のテレビにつなぐだけ！
○視聴料・・・月額2,100円（このほかに、スカパー！加入料・・・2,940円（初回のみ）・スカパー！月額基本料・・・410円がかかります）
法人契約・・・5,250円
○IUHW学生、マロニエ会会員、教育後援会会員の皆様は、特別視聴の制度があります。下記までお問い合わせください。

●視聴に関するお問い合わせは

フリーダイヤル 0120-870-774（株）医療福祉総合研究所　お客さま係　Eメール info@iryoufukushi.com　HP www.iryoufukushi.com/
〒107-0062　東京都港区南青山1-3-3　青山1丁目タワー　４階

広報誌 IUHW 78号

発行：学校法人 国際医療福祉大学
〔大田原キャンパス〕広報委員会
栃木県大田原市北金丸2600-1　☎0287-24-3000
〔小田原キャンパス〕
神奈川県小田原市城山1-2-25　☎0465-21-6500
〔福岡天神キャンパス〕
福岡県福岡市中央区長浜1-3-1　☎092-739-4321
〔大川キャンパス〕
福岡県大川市榎津137-1　☎0944-89-2000
〔東京事務所〕広報室
東京都港区南青山1-24-1　☎03-5775-2505

デザイン：iDept.　写真：大田原キャンパス 写真部他
編集：東京事務所広報室

©国際医療福祉大学　2009 Printed in Japan　禁無断転載・複写

お知らせ　IUHW Hot News

薬学部特待生特別選抜入試を実施します！

薬剤師になる夢を実現させるために経済面を
強力にサポートする新たな入試が誕生です。

成績上位合格者（最大20名）は特待生として授業料全額を6年間免除。特待生に続く成績上位合格者（最大30名）も授業料50％を6年間減免。薬学部はこの他にも学費の見直しを実施し、学生納付金は6年間総額960万円となり、2009年度の全国私立薬科大学の平均1,193.4万円（日本私立薬科大学協会調べ）を下回ります。

さらに、一般入試前期・センター試験利用入試Ⅰ期の各成績上位50以内を対象とした授業料減免制度など、学費サポート制度が充実しています。